

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム津山 北館		
所在地	岡山県津山市小田中138-1		
自己評価作成日	平成27年 1月 31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3390300048-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市南方町2丁目13-1
訪問調査日	平成27年 2月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年1月5日に1名入所 9名揃い満床となりました。介護度1~4と幅広く 個性豊かな方達で 唯一全員女性というところが一致しているところでしょうか。日中は居室にもどる方はいなくてホールでワイワイ・ガヤガヤと話をされております。会話も不思議と成り立っています。職員も明るく楽しい性格の方達で入所者様と毎日にぎやかに生活をしております。今年の目標達成計画については、1年を通じてお菓子づくり・壁画作製・外出行事出来るだけ多く致しました。南館とのふれ合いもずいぶん致しました。緊急時の対応については消防署の研修を職員全員覚えるまで学んで自然と体が動くようになればと考えておりましたが、時間的に少し無理があり実行できませんでした。その代わりに当施設で行っている研修に参加させていただきました。完全に身についたとは思えませんが良い勉強になったと思います。[私達のホームでは何をすることも全員一緒にする。]を基本にしているので大変なこともありますがやり終えた喜びは職員はもちろん入所者様にも伝わっていくのではないかと考えております。次回の目標には課題は同じでも内容をもっと珍しい物を考えていきたいと意欲をもっております。それには入所者様の笑顔が目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2つのユニットが別棟で南北に立地しているが、両方のユニット共にグループホーム本来の利用者9人が笑顔一杯で一緒に生活を楽しくしている姿を見ることが出来た。午前中はリビングルームにソファを配置し、そこで全員参加で身体を動かし、トークやゲームと歌唱をしながら楽しくレクをしている。このホームの特長は利用者が女性ばかりという事もあるが、利用者同士で誰かと2~3人で、又、4~5人で話が弾んでいる。そこに職員が何気なく利用者の間を取り持っている場面が多く見られ、利用者と職員が上手く融和していると思った。食事はテーブル席が別にあるが、食事前に利用者自身が“歩け！ 歩け！”とウォーキングをして足腰を鍛えていた。又、食後はテーブルで各自得意とする技能を分担して、貼り絵や塗り絵、裁縫等手作業をしながら、大作品につなげている。リビングルームに正月、節分、お雛様等の季節の大作満載である。その陰で両管理者は利用者の混乱事例を医師や関係者の協力を得て解決してきた事例が多くあつての今日があることも聞いた。2つのユニットがうまく合同して生活できるホームとなった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的で安心な生活」「健康維持・向上」「家族と利用者との信頼関係を受け良きパイプ役」この3つをこのホームの理念として掲げている。その理念は玄関の入口にあり、職員全員毎日見て日々のケアを実践しております。	家庭的、安心、健康を重視した理念を掲げており、協力医との強力連携で利用者の健康を守り、家庭的、安心面については、言葉かけ、態度等を常に振り返り、職員が話し合いながら理念の共有と実践に努めている。そのホームの中で利用者は元気で明るく、安心した表情で一日の大半をリビングで過ごしている姿を見る事が出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで出会った方と挨拶を交わし、施設内の避難訓練に地域の方にも参加して頂いています。また、小学校・幼稚園との交流・八幡宮のお祭りにも参加させて頂いております。	以前から地域、小学校、幼稚園との交流があるが、高校生による窓拭き、あやとり、カルタ取りなどで直接高齢者との交流が始まっている。その学生の中には将来福祉の仕事に就きたいという意向もあるそうなので、良い関係継続を期待したい。	幼児と小学生とは初歩的な高齢者との触れ合いを大切に考え、高校生ボラを受け入れることについては、将来の自分の職業として意識している学生が居るという事も考慮し、ホームでできる範囲の専門的(認知症について)講義が出来るような受け入れ態勢を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の折々に地域の方に参加して頂き、その中で認知症の理解を深めて頂くようお話をしております。(チラシ用意し見て頂く)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回行っており、ご家族・地域の方・市役所の方等の出席をお願いし、日々の活動報告後ご意見をお聞きした事を職員に伝えサービスの向上に努めていますが、最近ご家族が若くなった事もありご家族の出席が減ってきているのも現状です。	2カ月に一回、関係者が情報交換を行っている。推進会議で協議された避難訓練には地域の方が積極的に参加しており、地域の理解と協力は次第に大きくなり、自動通報装置も近所の数軒の理解を得て設置できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ市の担当者の方へ出席して頂き、情報交換をしております。とても地域の現状がわかり役立っております。	運営推進会議には毎回参加してもらっているのので、ホームの実態をよく理解してもらい、人間関係も良好なので相談も行いやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておりません。(施錠もしておりません)	職員会議や勉強会を実施し、禁止行為を理解している。職員三人体制を敷いているので見守りが行き届いている。利用者にも少しは動きがあればさり気なく声掛けを行い、寄り添う職員の姿があり、混乱や行動の制約は全く見られなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングで職員同士で話し合い勉強しています。研修があれば参加したいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で後見制度の研修があり参加しました。現在利用している方がおられるため関係者の方とお話をし理解を深めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に重要事項説明書にてご理解頂けるように説明し、同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置やご意見ご要望書の設置を行っています。入居者の方や家族の方は直接、職員へ要望等を言われております。	周辺症状が混乱状態になり、突き放されそうになった人を医師ともよく相談し、ホームでの生活が可能になった。又、別の混乱状態の人の感情を落ち着かせ、普通に食事が出来るまで回復させた。両方の事例とも家族から感謝されたそうだ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月のミーティングで話し合いを行い、取り組んでいます。	法人直系の2つのグループホーム(4ユニット)が合同で敬老祝賀会を開催した。初めての機会だそうで職員が出物の発想準備でも頑張ったそうだ。すごい連帯と相互援助の機会だったと思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はミーティング等意見を出し合った結果を法人幹部に報・連・相を行い、就業環境の改善に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修参加・ミーティングでの研修報告を兼ね勉強会を行っております。今年は法人本部の行っているスキルアップ研修に参加し、レベルアップ出来たように思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加させて頂き、交流・資質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時からマッピングシートを使って職員全員でご本人の生活習慣・行動を色々な面から見せて頂きご本人にじっくりお話を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に家族から詳しく話しを伺っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みの見学にこられた方で、グループホームでの生活が難しいと思われるような方には、他の施設への情報提供を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活習慣を理解した上で日常生活でできることを職員と共に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いの中から家族が行える支援をケアプランに明記し、共に支える体制を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会・家族と共に外出して頂き昔行っていたお店等にも連れて行って頂いております。(ご家族が町内会の会合と一緒に参加されている方もおられます。)	外部者との関係は家族に負うところが大きいですが、面会者にはホーム全体の喜び事として丁寧に対応している。ホーム内では気持ちの合う人を同席し、孤立させないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度化した入居者様だけが孤立しないよう職員が間に入り支援しています。また入居者様同士の相性を考え席を決めて、お互い協力し合えるような雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先には看護添書にて情報提供を行い、次に入所された施設・病院には時々面会に行き、ご様子を見せて頂いております。ご家族も喜んで下さっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に寄り添いその方に合った声掛けを行い、一人ひとりの意向に添えるよう努力しております。職員が皆様の中に入り会話の橋渡しをし場を盛り立て楽しく日々を過ごすことができました。(25年目標達成計画実施)	アセスメント表やヒストリーの中から人物像を頭に置き、日常生活の中から把握している。リビングでは、編み物、貼り絵、読書、職員のハーモニカに合わせて歌う人があり、賑やかな中でそれぞれが充実した表情を見せていた。	認知症ケアの最終局面は“心のケア”だと考えている。そのことを実現できるのはグループホームではないかと思う。今ホームでしている事はその一端だと思うが、その中から利用者の思い、言葉を拾い出ししていくと心につながっていくと思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接での聞き取りや入所後のマッピングシートにて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン実績表や介護経過・毎日のバイタルチェックの記入を通して入居者様の状態を把握しその方のペースで日々過ごして頂いております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際にはモニタリングにて現行プランの見直しを行いケアカンファレンスを開き、関係者の意見をきいています。	26年の目標達成計画に“利用者のやりがい、生活の楽しみの実現”を掲げて活動していたことが、今回、利用者が和気あいあい笑顔一杯の生活ぶりを見る事が出来た。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実績表・申し送りノートで情報共有を図りながら、日々のケアに役立てています。必要に応じてカンファレンスを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族の要望にできる限り対応するよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(祭り)・幼稚園小学校の交流・理美容ボランティアのご協力を頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診・他の医療機関受信の折は主治医より紹介状にて連携。ご家族も安心しておられます。	家族の希望により、入所と同時に提携医が主治医となっている。月2回の定期往診と緊急時の対応など、適切な医療が受けられているので、利用者、家族、職員は十分に安心できている。又、この提携病院の栄養士が利用者個々の状態を把握し、食事形態やカロリー摂取量を指示しているので、職員は不安のない食事を提供できることが何より有難いという事を聞いた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週に1回訪問看護を受けている。日々の体調を伝え相談援助をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は看護添書にて情報提供を行い、随時、連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	歩行困難や経口摂取困難などホームでの生活の限界を契約時に説明し、重度化が予想される場合など随時、意向を確認しています。寝たきりになった場合でも対応できる系列施設があるので、重度化した場合に希望があれば紹介を行っています。	管理者は、利用者が入浴困難となった時点をタイムリミットとする方針を持っているが、その都度家族と話し合い、出来る事の最善を尽くしている。家族の希望によりシャワー浴で保清しながらできる限界まで要望に応えたという事例を聞くことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修に参加しています。新人職員を必ず受けるようにしています。救命救急の本を用意し各自自主学習していましたが、今年は法人本部の研修に参加いたしました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回消防署の指導の元行っております。地域住民の方も参加協力して頂いております。(26年目標達成計画実施)	母体法人のマニュアルにより、北館、南館合同で年2回の訓練を実施している。運営推進会議で協議された地域住民参加型方式を取り入れ、住民は「見守り」という役割を位置付けている。ホームに設置している自動通報装置は、隣りから隣りへと順次伝わる機種となっており、多くの住民の理解と協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、必ず入居者様の了承を得ています。トイレ誘導時にも配慮を行っております。	「食事の前にトイレを済ませておきましょうか」と職員の声掛けに、抵抗感なく皆が笑顔で行動していた。化粧を習慣としている利用者が忘れていた時には化粧を促している。又、ゲームの中にも、出来る人、出来ない人へのさり気ない支援の仕方が現れており、職員が専門職としての自覚を堅持し、人格の尊重と言うゆるぎない裏付けがしっかりしていることを、十分感じることが出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とのコミュニケーションを図り、自己決定して頂いています。また、表情・行動などで入居者の意志を読み取るようにも心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課の流れはありますが、それに囚われず、各一人ひとりのペースに合った生活をして頂けるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を選択して頂けるよう声かけや支援をしております。朝の身支度時には髪を整えお顔の手入れなど声かけ支援をしています。個性を活かす工夫もしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできるお手伝いを一緒にして頂いております。食事は各自に合った形態で提供しております。四季折々にケーキやお鍋・ぼた餅風・かき氷等入居所様と作って楽しく過ごすこともしてみました。(25・26年目標達成計画実施)	リビングに面した台所で当番職員が利用者の顔を見ながら調理している。個人に合わせた刻み食、摂取カロリー等、提携医の栄養士の指導を受けているので安心して提供できている。職員が利用者の間で一緒に食事しながら「これは初物の菜の花じゃけえ食べてみて…、そうか初物か…」と、残っていた和え物を食べ始める利用者等で温かい雰囲気があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェックしております。体重管理をし、増減にも注意しております。水分の取れない方には入居者様の好きな飲み物をお出ししております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。介助が必要な方は職員と一緒にいき、口腔内の清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が掴み取り排泄誘導を行っています。また、何ができて何ができないかを把握して支援しています。	全員が声掛けと誘導と見守りでトイレ排泄が出来る。個々の課題には職員が共通認識を持って対応し、出来る限り失敗を少なくして、家族の経済的負担の軽減も視野に入れた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1300cc以上の水分摂取を促し、牛乳・ヨーグルトをとって頂きなるべく野菜中心に肉・魚のバランスを考えを提供し、ビフィズス菌についても勉強し提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入居者様個人々の状態を把握して入って頂いております。	法人全体の「毎日入浴」という基本路線を堅持しながら、体調や気分に合わせて対応も行い、二日に一回は実施して保清に努めている。管理者は、入浴がおっくうでも「ああ気持ち良かった」という利用者の笑顔を絶やさない為にも、負担や抵抗感を出るだけ排除した支援を心掛けていると話していた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室完備のためご自分のペースにあった生活をして頂いております。休みたい時は休んで頂き日中居室に入りたくない方は共同スペースで自由に過ごされております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分けや管理は契約している薬局で行っています。主治医へは、状態変化に応じ連絡し指示をあおいでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様やご家族からお話しをお聞きしたことをもとに喜んで頂けるよう食事・外出等日々を通して支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人八幡宮にお参りに行きたい方がおられ散歩がてら他の方も誘って職員と一緒にでかけております。近くのスーパーには歩いて出かけお好きな物を買って帰って来ます。気候の良い時には、全員でドライブをし外食をして1日を過ごす事もあります。(25.26年目標達成計画実施)	ホームは斜面にあり、道も狭いので困難はあるが、利用者全員が元気なうちに出来るだけ外出して色々な体験をしてもらいたいという、目標達成計画を掲げて実践してきた。ホーム内では、北館と南館のスペースで両棟合同の食事会、お茶会等で外出気分を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3万円以下のお金を預かり金として事務所に預かりしております。外出時に入居者様がほしい物があればそのお金をお渡ししてご本人と一緒に職員が付添買って頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がご家族からかかってきた電話の取り次ぎを行っています。また、入居者様が電話をかけてほしいと言われたときには、お電話をかけてお話をさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな場所に建てられている施設なので、落ち着いて暮らしております。ホールには季節の花を飾ったり季節感を出す工夫をし体全体で感じる事が出来たように思います。	玄関を入るとすぐのリビングは遮るものはなく広々と感じる。ソファ一部分と食卓に別れ、綿格子の2色のソファカバーが家庭的雰囲気を存分に醸し出しているのが印象的である。一日に2回窓を開けて空気の入替えを行っている。手芸等の小道具は手近に配置している。利用者の作品がゆったりと揺れて、機能性と美観が調和したリビングである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の気が合った方は、居室を訪問したり、ソファやテーブル席でお話をされております。時々喧嘩をされることもありますが、その時には職員が中に入り仲介役をすることもあります。また、ホールは広いので一人でゆっくり過ごされておられる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具等は、各自使い慣れた物を持参されております。	安全、清潔、プライベートルームとしての機能も十分に活かされている。利用者の殆んどは一日をリビングで活発に過ごしているが、居室で読書を楽しむ人も居る。担当職員と一緒に部屋づくりをするのも楽しみの一つと聞いた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所や浴室は解りやすく表示しています。テーブル席は入居者様のお名前を付けてわかるようにしています。居室では歩行が少し難しくまた握力が少し弱くなってきた方にはベットの回りを工夫し安全に努めております。		